生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター天竜担当圏域レベル）開催報告書

１　開催日時	令和　７年　２月　１７日（月） １４時００分　～　１５時３０分
２　開催場所	天竜保健福祉センター　会議室
３　参加者	

委員14名
関係機関6名（天竜福祉事業所長寿保険課2名、市社協4名）

４　協議の内容	

1、開会
2、あいさつ
・天竜福祉事業所 長寿保険課長
3、情報交換・意見交換
○各地区の活動状況について
2グループに分かれ、グループワーク形式にて行った。
① 各委員からの活動状況の説明
② 質疑応答、意見交換
③ 各グループ発表

主な意見
【1グループ】
（熊地区）
○くんま地域買い物ツアー
・天竜厚生会（くんまデイサービス）の協力あり
・12月の課題…参加者が集まらない（集合場所までの足がない事が原因だった）

（上阿多古地区）
○遊ビリ輪っぱ、ボッチャ大会
・結夢あたごの協力
・若い人を集めたい、若い人の活動の場を作る
・地区社協が知られていない
・サロン参加者、支援者ともに高齢化、足がない
○スマホ相談会
・天竜高校の協力

（下阿多古地区）
○グランドゴルフ、輪投げ
○サロン活動（4か所）
・サロンの継続が難しい
○集まりの場所の周知（一覧表を作成）
・滝、サウナ天竜など（体験してみた）
・地域の観光、外部の利用者が多い
・地域の活動、地域の観光資源の融合

○家事支援活動
・家事支援28件ある（ゴミ出し、簡単な修理など）
（二俣地区）
○ラジオ体操（きころ）
・きころの協力（室内利用）定着した
○困った時の連絡帳の使用方法のチラシ全戸配布
・自治会の協力
・連絡帳の周知と活用の呼びかけが重要
・どれだけの人が活用しているか？
→ サロンで確認、声かけ
自治会理事会で確認したら？
民生委員の協力依頼

（光明地区）
○地域別の課題の掘り下げ作業を実施
・地域により困りごとが違う
○たすけあい活動の協力者募集
・地域から6名の協力者が決まった
○スマイルカフェ（栄町）
・受け身ではなく主体的に参加できるサロン
・高齢者だけでなく誰でも参加できる、子どもも来てくれた

（竜川地区）
○地区社協だよりの発行
・若い人たちの協力がある
○次の活動にむけての検討
・家事支援活動にむけて（えがおデイサービスの協力）

（春野地区）
○春野中学校福祉講座
・認知症講座の継続が決まった
○認知症をテーマに話し合いを継続
○閉店した商店でのフリーマーケット（採れた野菜、手芸品など）
・住民が自主的に始めた

【2グループ】
（熊地区）
○地域の人、団体資源の発掘
・身近なグループ（個人参加は難しい）
・社協だよりでNPO「耕」の紹介→地域の人をつなげる
・困りごとを表面化するためのきっかけづくり
○楽しく生活するための支援
・買い物支援もその一つ
・NPO耕…楽しい事のきっかけづくり
○くんま地域買い物ツアー
・買い物…買いたい店に行きたい、これを言ったらわがままかもと思ってしまい躊躇する
○世代間交流活動
・毎回同じ…義務的になっていないか？　楽しめている？

（上阿多古地区）
○関係人口を増やす
○ボッチャ大会
・少しづつ浸透してきた
・地区社協で購入した
・地域にも定着を図る、10年かければ（何年かに1回取り入れるような）
○困った時の連絡帳
・少しづつ浸透させたい
○ささえあいポイント事業
・地域にいる人で全部の完結は無理がある

（下阿多古地区）
○地域の活動などについて
・若い人の参加もある中で、運営側にも関わってほしい
・新しいことがいいというわけではない
・地域で行われていることに若者が参加してほしい
・地区内のサロンの存在を知らない
○サロン、集いの場などの取材
・サウナ、駐車場など40か所
・地区社協だよりで PR する

（光明地区）
○たすけあいのしくみづくり
・地域へ募集実施→6人が集まった
○スマイルカフェのお試し開催
・男性、現役世代、子どもも参加
・お茶を飲むだけでも OK
・サロン…高齢者向けのイメージ
・交流　…地域毎の交流ない
世代に限らず誰が来てもいい
○困った時の連絡帳の検討
・＃0119も入れたらどうか

（竜川地区）
○お店、ふれあいの場、集う場所の調査
・地区社協だよりで紹介してきた
○デイサービスが送迎、家事支援を検討
・今後地区部会で検討予定

（春野地区）
○春野中学校での福祉講座
・認知症をテーマ
・学校からも継続を希望、新年度以降検討

4、その他

5、閉会

５　今後の見通し・必要な対応
今回は年度後半期における各地区の情報共有を図る目的でグループワーク形式にて実施した。今回出された情報や意見は今後の各地区部会において効果的に共有できるようにしていく必要がある。